ツボを押さえて読むほどハマる!

はだし文化新聞

ふむふむ

創刊号 No.1 2015 1|27

2015年1月27日発行(1月・5月・10月発行) 通巻 第1号
発行／NPO法人日本ビーチ文化振興協会
編集人／朝日健太郎
〒104-0033 東京都中央区新川1-1-7 リバーサイド茅場町3階
電話 03-3552-1171

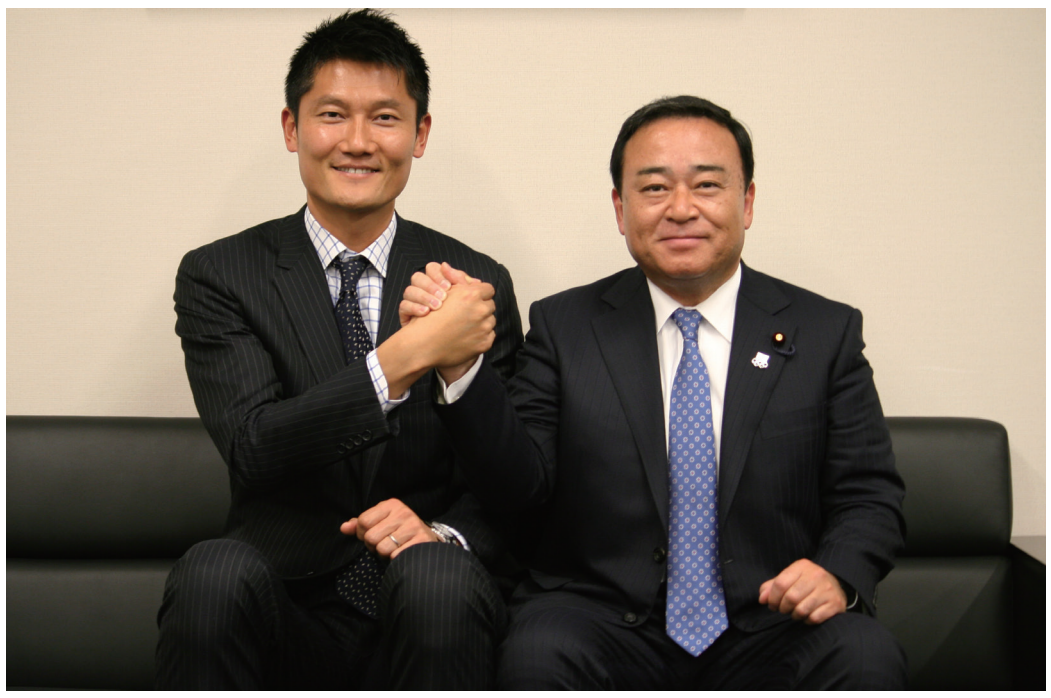
編集スタッフ／吉田亜衣 (BeachvolleyballStyle)
デザイン／島内泰弘デザイン室

INDEX

1面 ・新春対談:梶山弘志×朝日健太郎「目指すべき21世紀のビーチ文化」
2-3面 ・特集:日本招致に向け、アジアビーチゲームズを視察
・連載:朝日健太郎が目利きする砂ソムリエ
・連載:おらが街のビーチ自慢
4面 ・特集:12年のあゆみ ～美しき理事が活動を振り返る～
・連載:健's BAR ～ビーチの出会いに乾杯～
・連載:ビーチ文化のはじまり
・編集後記:はだしの足跡

新春対談 梶山弘志(衆議院議員)×朝日健太郎(NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事長)

衆議院・災害対策特別委員会委員長として環境問題や地域の活性化に取り組む梶山弘志議員とNPO法人日本ビーチ文化振興協会の朝日健太郎理事長が、日本でビーチライフ(文化)を築き上げていくその必要性について意見交換を行った。



NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事長の朝日健太郎氏と2014年12月の衆議院選挙・茨城4区で6期目の当選を果たした梶山弘志議員

目指すべき21世紀のビーチ文化

ビーチにはすべてが合う。日常化するモデルケースを

朝日 梶山先生の地元・茨城県ひたちなか市の阿字ヶ浦海岸では、当協会は海辺の楽しみ方や海水浴以外の活用を知っていただくため「ビーチライフ」をテーマにイベントを開催してきました。

梶山 もう10年になりますね。現在、全国的に自然環境の変化等の影響で砂浜が浸食されていますが、『ビーチライフふれあいフェスティバル』を開催してきた目的は、津波などの防災面で重要な役割を果たす砂浜の存在を、楽しいイベントを通じて身近に感じていただきたいという考えがあったからです。

朝日 『ビーチライフふれあいフェスティバル』はビーサン跳ばしやビーチステージ、ヨガなどいろんな人たちが集えるプログラムを取り入れて、毎年少しずつ成長を遂げてきました。今後も地元の方々の意見を基にして、新しい取り組みを考えていきたいです。

梶山 例えば、夕暮れ時。港に大きな船が入ってくるのを見ながら、ウッドデッキでお酒を飲んだり、本を読みながらくつろげる。一年中、海岸線で楽しめるような新しい文化を創り上げていきたい。実は、東日本大震災のときに大きな防波堤が役割を果たし阿字ヶ浦の町を救いました。

2014年9月28日、ひたちなか市阿字ヶ浦海水浴場で開催された「ビーチライフふれあいフェスティバルin阿字ヶ浦2014」でビーチ綱引きに取り組む子供たち

港というのは外洋に向けての貿易だけではなく、防災という意味で役立っているということをご理解いただきながら、日本中にビーチライフの楽しさを知ってもらいたいですね。

朝日 私自身、ビーチデザインという言葉をよく使わせていただくのですが、昭和の高度成長期には港がどんどんできて、港といえばコンクリートで固めてきたというイメージも否めないですよね。そこを多目的で使える、誰もがくつろぐ砂浜を作り上げて港を全体的にデザインしていくのが理想だと思います。

梶山 港ができると人が集まってきます。そして、新しい仕事が生まれます。地方の人口が減少傾向にあり都会に流出していく社会の中では、地方の人口を維持していかなければいけないですし、今後は子育て世代が働ける場所が必要です。そんな中、各地域の港が「受け皿」になり雇用が生まれれば、暮らしも安定していきます。そうして人々の心が豊かになっていくことで、海辺でレジャーも楽しむことができますし、砂浜で楽しむ若い人たちも出てくると思います。

朝日 10年間、阿字ヶ浦で『ビーチライフ』をやらせていただいた結果、ビーチバレーボールのコミュニティクラブが生まれました。地元の方のお力添えをいただいて常設コートも造っていただき、愛好者の皆さんによって定期的に草大会も開催されているといういい事例ができました。

梶山 小さなお子さんたちがいろいろな競技に触れるのは、競技人口を増やすことにつながります。その一方で、イベントではフラダンスやダンスチームがステージで太陽の光を浴びながら踊ったり、漁業組合の奥様方が港料理を作ってくれる。まさにビーチ料理教室もできるし生け花や茶道もできる。ビーチにはすべて合うのですよね。

朝日 おっしゃる通りですね。先日『アジアビーチゲームズ／タイ・プーケット』の視察に行ってきました。その中で「ビーチバスケットボール」という競技があったのですが、砂の上ではなくビーチの横のアスファルトの駐車場で開催されていたんですよ! 言い換えれば、ビーチのそばで何でもできるんです! 非日常的な体験を日常的なものとして取り入れていくことも大切です。あらゆる年齢層が楽しめるデザイン事例を先生からご指導をいただきながら作っていきたいです。それがモデルケースとなれば、全国にどんどんと広まっていくはずです。

梶山 ぜひとも浸透させていきたいですね。人間の知恵は自然の力には到底かないませんから、防災を考えていかなければいけません。古き昔は人間の五感を研ぎ澄まし、津波の記録も言い伝えとして残してきました。しかし科学が発達してきた現代、いつからか人間の五感を使うこともなく言い伝えが途絶えてしまった。津波がくる範囲に集落ができて、それが大きな被害へとつながりました。だからこそ今、ビーチ文化を通じて海の起源を探して掘り下げていくことも我々の大きな仕事の一つです。多くの方に海を親しんでもらい日常的に砂浜を見守っていただくためにも、これからもぜひ一緒に活動していきましょう。

朝日 はい! 震災以降、海から離れる傾向もありましたので、地域の皆様に防災面をご理解いただき、砂浜の活用法を考えていくことを大きな軸として活動していきます。

朝日健太郎

Kentaro Asahi

「砂浜」をデザインしていく

誰もがくつろげる

梶山弘志

Hiroshi Kajiyama

津波から町を救った「港」は防災の重要な役割

001_hadashi-bunka-shinbun.indd 1 15/01/22 13:36

HADASHI BUNKA SHINBUN

日本招致に向け、

ASIAN BEACH GAMES アジアビーチゲームズを視察

開催地の特色や既存の施設を活かす手作りの国際大会

「ビーチスポーツの祭典」として2年に一度、2008年からアジア各国で開催されている「アジアビーチゲームズ」。近年、世界各国で広まりを見せる「アジアビーチゲームズ」を日本に招致するために発足した「ビーチゲームズ日本招致推進プロジェクト」チームは2014年11月、タイ・プーケットで開催された「第4回アジアビーチゲームズプーケット2014」を視察した。

A

B

C

A. タイにはセパタクローのプロリーグがあるだけに満席で賑わうビーチセパタクローの会場
B. 日本が銀メダルを獲得したビーチサッカー
C. 日本でもお馴染みのビーチバレーボール

第4回目を迎えたアジアビーチゲームズ

プーケットと言えば、アジア屈指のリゾート地。大会期間中は、小中学校は公休となり、高校生は大会ボランティアスタッフを務めるなど、国際大会開催に向けて島をあげての「オモテナシ」が準備されていた。

観光客も気軽に立ち寄れるように立ち見も可能で、24種目すべての競技において観戦無料。タイの国技であるビーチセパタクロー、人気競技であるビーチバレーボールを始め、どの会場も初日から満席だったという。

そんな中、視察団は今後「アジアビーチゲームズ」を日本で開催するに向け、大会を主催するアジア・オリンピック評議会（OCA）にヒアリングを行った。

ヒアリングの内容は、日本で「ビーチゲームズ」を開催するにあたり、必要になってくる規定について。ヒアリングに立ち会った吉澤裕子氏は、「競技、種目の数、選択を含めた大会の規模にマニュアルはあるのか？」をお伺いしてきました。OCAの回答は、開催地の特色や既存の施設を活かしながら、開催地ならではの大会を「一緒に作り上げていくのが理想、とのことでした」。

通常、国際大会を開催するとなれば、競技数、会場、施設の規定に沿って予算を捻出して作り上げていくが、「アジアビーチゲームズ」は開催地の規模に合わせていく方針を掲げている。「国際大会と聞くと主要都市しか開催できないイメージがありますが、ビーチゲームズは開催地の規模に合わせて作り上げていくので、地方都市でも開催が可能。そのサイズ感が魅力ですし、観光誘致や地域の活性化に向けて大きな起爆剤となるイベントだと感じました」（吉澤氏）

2015年にはアジアの枠を越えて世界大会も予定されている「ビーチゲームズ」。ビーチ文化の確立に向けて、大きな一歩につながる日本招致に向けて、期待が寄せられる。

ビーチハンドボール日本代表チームを労うナビゲーターの朝日健太郎氏

ビーチゲームズあれこれ

「アジアビーチゲームズ」とは、砂浜や海辺、湖畔などで行うビーチスポーツ、マリンスポーツが集結した国際大会。当初は、オリンピックの正式種目ではない発展途上の競技を中心とし2008年の第1回バリ大会から始まったが、近年ではオリンピック、アジア競技大会に続くスポーツの祭典として成長を遂げてきた。

とくに注目すべき点は、競技ルール上、砂浜や水上と直接関係なくても、海のそばに会場を作ればビーチスポーツとして成立するということだ。

その一例として今回のプーケット大会では、「ビーチバスケットボール」が導入された。どんな競技なのか容易には想像できないが、実際会場となったのは海のそばのアスファルト。通常の3×3とただ1点違うのは、潮風がそよいでいるということだけだ。

「ビーチゲームズ日本招致推進プロジェクト」のナビゲーターを務める朝日健太郎氏はビーチゲームズの開催を通じて、「ビーチで非日常的だったことを日常的に取り組めるようになるきっかけになる」と睨む。

また、視察団が注目したのは、木槌状のクラブでボールをゲートに通すウッドボールだ。ゴルフやゲートボールを砂の上で行う感覚で気軽にできる競技とあって、「ゴルフ愛好者はもちろん、年齢関係なくビーチできるスポーツ。やがて高齢化社会が訪れる日本にとって今後、競技人口が広がっていく可能性もあると思います」（吉澤氏）

今後、「ビーチゲームズ」の存在価値を広めていくことは、日本のビーチ文化を築き上げていくなかで、重要なピースとなるだろう。

海辺の駐車場を特設コートに変えて行われたビーチバスケットボール

年齢関係なく世界一を目指せる競技、ウッドボール

海からの潮風を受けながら行うスポーツクライミング

まだまだあるぞ！これもビーチスポーツ！

ビーチレスリング

砂の上という不安定なフィールドで力と力がぶつかりあう砂上の格闘技。パワー溢れる取っ組み合いが見どころ

ビーチペタンク

ヨーロッパで人気のペタンクをビーチで！砂に埋もれた球を弾き飛ばすテクニックに注目

ビーチハンドボール

砂の上だとさらにダイナミックなコンタクトスポーツ。思いっきりのいいダイビングシュートは迫力満点！

ウエイクボード

湖畔にある既存の施設が活用された。ウォータースポーツは内陸であっても水辺さえあれば、開催できる

うちに来て来て！

おらが街のビーチ自慢

～ここはいいトコ、一度はおいで～

京都府・京丹後市

海と山の幸を一度に堪能できる

夕日ヶ浦海岸からのサンセット

間人（たいざ）漁港で水揚げされる間人ガニ

日本海を一望できる丹後半島の北西に位置する京丹後市は、夕日の絶景スポットとして知られる街。半島の先端にある経ヶ岬から小天橋までの約45㎞の海岸線には15の海水浴場があり、踏むと音がする「鳴き砂」のビーチもあります。

そんな京丹後市の名産は、「幻のズワイガニ」として知られる「間人（たいざ）ガニ」。鮮度と肉質を落とすことなく、地元の漁港で水揚げされます。中でも食通を唸らせるのは、「間人ガニ」のメス「コッペ」。サイズは小ぶりですが、カニ味噌や卵は濃厚でカニの旨みが凝縮された逸品です。

海の幸だけではありません。連なる山々と海に囲まれた京丹後市では、農作物など山の幸も豊富。特にきれいな山水で育つ丹後産コシヒカリは日本穀物検定協会の食味ランキングで特Aに認定されているのです。

海と山の恵みを一度に味わえる自然の宝庫。それが京丹後市の最大の魅力です。

かぶと山から見た久美浜湾

地域DATA

人口●58563人（平成26年11月末現在）
代表的なビーチ●琴引浜、夕日ヶ浦、小天橋、八丁浜ほか
観光名所●小天橋、夕日ヶ浦海岸、経ヶ岬
名産●間人ガニ、カキ、丹後米、梨、ブドウなど
宿泊施設●旅館、民宿を中心に200施設

おらが街の味自慢

丹後ばら寿司

丹後の名物料理といえばこれ！甘辛く煮つけたサバのおぼろを酢飯で重ね、錦糸玉子、紅しょうが、かまぼこ、椎茸など彩りよく散らして切り分けます。ハレの日の家庭料理として親しまれ、近年は地域によって違う個性的な丹後ばら寿司の食べ歩きマップも作られるなど、丹後あじわい食として話題を呼んでいます。

タイ王国・プーケット

カロンビーチ

第1回

砂ソムリエ

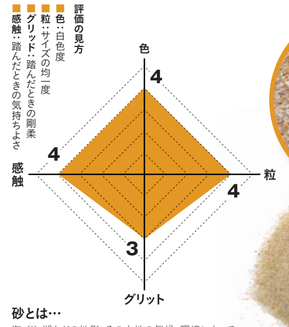
～朝日健太郎が目利きする～

元プロビーチバレーボールプレーヤー・朝日健太郎が各地の砂を踏んで触ってビーチスポーツにふさわしい砂を選ぶ「砂ソムリエ」は、足跡の数で評価する。足跡3つが最高だ。さて記念すべき第1回で取り上げるのは、11月にアジアビーチゲームズが開催されたタイ・プーケットのカロンビーチの砂。

日本にはほとんど存在しないタイプで、粒は小さく均一に近い。感触は柔らかく、しっかり踏むとグッと深く沈むタイプである。

カロンビーチは観光地としてきれいに管理されていたこともあり、色は黄金色で不純物もほとんどない。スポーツの利用にも最適で、ビーチスポーツはもちろん、基準値が厳しいと言われるビーチバレーボールの国際大会でも十分通用する砂である。

Phuket KARON BEACH, Thailand



不純物もほとんどなく、ビーチスポーツの利用に最適。

砂とは…
海、川、湖などの地形、その土地の気候、環境によって色味、粒のサイズは変化を遂げる。
砂粒が大小バラバラだと水分や塩分が含まれやすくなり踏み固まる。
粒が均一であればあるほど滑りもよく、砂を踏んだときに足が埋もれる。

総合評価
〈はだし〉2つ半!!

12年のあゆみ

～美しき理事が活動を振り返る～

佐伯美香
元ビーチバレーボール日本代表
シドニー五輪4位、北京五輪出場

自分を見つめ直すきっかけに

現役時代は海外遠征に行くたびに日本もアメリカやブラジルのように、海岸に人が集まる、賑やかな場所にならないかなあと思っていました。

当協会が発足し共に歩んできた12年。子供たちとチームを組み、ビーチの上で運動会をした楽しい思い出、ビーチの上でのヨガは、自分の身体を見つめ直すきっかけにもなりました。まさに「私が理想とするビーチに日本が生まれ変わる！」、そんな思いで活動を共にさせて頂いています。今後も微力ですが、ビーチの魅力をたくさんの方に伝えていきたいと思います。

遊佐雅美
ライフセーバー
ビーチフラッグス世界&日本王者

海岸の利用者を増やすために

私はライフセービングを通じて命の尊さを学び、当協会の活動では「地域の特性を活かした海岸利用」を目的とした「ビーチパーク」を掲げ、日本を明るくしていきたいという想いで活動してきました。

10年前に比べて海岸利用の多様化が進み、海岸愛好家が増えてきています。私が住む新潟県柏崎市は約42㎞の海岸線、15カ所の海水浴場があります。水質は高い評価を受けていますが、課題は利用されていない海岸も存在するということです。

今後は、どのように海岸利用者を増やし、シティセールスにつなげていくか。昨年は柏崎で「ビーチライフ」を開催することができましたので、他団体と横のつながりを構築し試行錯誤しながら柏崎の海岸のすばらしさを伝え、盛り上げていきたいと思います。

子供たちと一緒にビーチフラッグをする遊佐理事

徳野涼子
愛媛県立松山商業高等学校教員
元ビーチバレーボール日本代表
アテネ五輪出場

ハダシの心地よさを伝えたい

愛媛で生まれ育ち、瀬戸内海の貝殻混じりの砂しか知らなかった私は、ビーチバレーボールとの出会いをきっかけに国内外のビーチをハダシで渡り歩く貴重な経験をさせていただきました。そこで知ることができたのは、いろいろな砂浜のスタイルでした。アメリカ西海岸やブラジルのビーチは白くて粒子も細かく、柔らかい。ヨーロッパの陸地には、砂を敷き詰めた人工ビーチが点在し、バカンス気分が味わえました。

私は現役引退後、地元愛媛で高校教師として奮闘中です。そこで生徒をビーチに連れ出し、トレーニングやリラックスタイムの時間を作っています。一人でも多くの生徒たちにハダシになる心地よさを実感してもらいたいものです。そして、夢を実現させる英気を養ってほしいと心から願い、はだし文化の継承をライフワークとして地道に行っていきたいと思っています。

スクールでビーチバレーボールを教える徳野理事

浦田聖子
プロビーチバレーボール選手

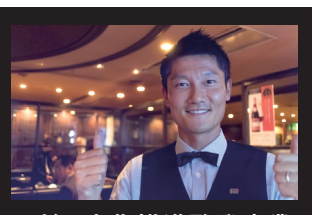
海辺の笑顔が好循環を生み出す

当協会が設立された頃、ちょうど私自身もインドアバレーからビーチバレーボールに転向し、あれから10年以上の月日が流れました。この間、アスリートとしてビーチを愛する一人の人間としても成長を遂げることができました。

とくにビーチの環境美化を啓発するイベントで感じることは、ビーチと触れ合えば、皆が笑顔になれるということです。その笑顔から会話が生まれ、会話から海辺をきれいにするためのアイデアが生まれ、そのアイデアを起点に大勢の方々が一体となった活動が生まれます。その結果、参加した方々全員がハッピーな気持ちになれるといった好循環が生まれるのです。私は今後もビーチでたくさんの笑顔を生み出す活動を積極的に続けていきます。それが、私を成長させくれたビーチへの恩返しにもつながると強く信じています。

ビーチの出会いに乾杯

健's BAR



はだし文化推進啓発事業

日本ビーチ文化振興協会が多くの方にビーチの良さを伝えるために、理事長の朝日健太郎がBARのマスターに変身。毎回、特別ゲストを迎えながら、ご来店いただいたお客様と熱いディスカッションを繰り広げる会です。第10回はプロライフセーバーの飯沼誠司さんをお招きし、人命救助とライフセービング競技の意義をマスター健とトークしました。「僕たちが常に安心して海辺を利用できるのは、ライフセーバーの存在あってこそ。日本のビーチの未来を築き上げていくうえで共存できるいいコンビだと自負しています」（マスター）。ビーチに関わるすべての人たちをつなぐ「健'sBAR」。かけがえのない出会いがあなたをお出迎えします！

第11回　健's BAR

日時　平成27年3月11日（水）
ドアオープン／18:30　スタート／19:00
（トークショー、懇親、フルーツバスケット、ジャンケン大会）

会費　初回 4,000円（年間パートナー費2000円+飲食代）
2回目から3,500円（飲み放題+軽食付き）

会場　プロント 大手町店（千代田区大手町2-1-1 大手町野村ビルB1F）

ビーチ文化のはじまり vol.1

大村哲夫 Tetsuo Omura
NPO法人日本ビーチ文化振興協会会長

第1回 創世期

かつて国土交通省の港湾局にいた私は、全国各地の港湾や海岸を作り、海辺の整備に取り組んでいました。港湾を作っていく作業を繰り返していく中、それまでの整備の発想を覆すような印象的な出来事がありました。

九州地方のある海岸を整備したときのことです。私たちは地元の方々に海でゆっくりくつろいでもらおうと砂浜のそばに緩やかなコンクリート製の階段を作りました。

完成した後、ご近所の方に感想を伺ったら、「コンクリートになったことで自然が失われ、ペットの散歩が不便になってしまった」とおっしゃったのです。

そのとき、海岸を整備するということは、ただきれいに整えるだけではない。造っても決してそこで完成ではない。実際、海辺はどのように活用されているのか。海辺を使う側に立って活用方法を考える必要があるのだ、と気づかされました。

そんな時、当協会の前理事長の瀬戸山正二氏とお話する機会がありました。かつてビーチバレーボールのオリンピック選手であり、世界中のビーチを見てきた瀬戸山氏は「日本もアメリカやブラジルのように、普段の生活から人が集まってくる賑やかなビーチ文化を創っていくべきではないでしょうか」と唱えました。

夏場の海水浴やサーフィンだけではない。私たちのそばにある海辺は一年中、活用できるのではないか。新しい海辺の文化創造に向けて理念が合致した私たちは2003年、日本ビーチ文化振興協会を立ち上げたのです（第2回に続く）。

編集後記

はだしの足跡

朝日健太郎

当協会は、これまで日本におけるビーチ文化の創造啓発活動を行ってきました。今回は新聞の形態をとり、ビーチへの想いを皆様のお手元へお届けしようと創刊しました。梶山弘志先生との対談では、古来からの港文化を継承するためにこれから創っていくビーチ文化の必要性を改めて思いました。また、歩みをともにしてきた理事のメンバーも、日本のビーチ文化のように成長してきたように思います。私たちは、この新聞を通じて多くの人に笑顔と元気を届けられるように頑張って参ります。一緒にビーチではだしになりましょう。

INFORMATION

あなたの街のビーチや港を紹介しませんか？

「はだし文化新聞」では、皆様の街のビーチや港の情報を随時募集しております。ビーチや港の魅力、それにまつわる夢など、ご意見をお寄せください。

〒104-0033
東京都中央区新川1-1-7
リバーサイド茅場町3階
NPO法人日本ビーチ文化振興協会
「はだし文化新聞」お便り係
メール：info@jbeach.jp
ファックス：03-3552-1220

BEACH FLAGS

BEACH HANDBALL

BEACH SUMO

BEACH VOLLEYBALL

入場無料

『ビーチゲームズ日本招致推進プロジェクト』

ODAIBA
ビーチスポーツフェスティバル2015

2015年5月3日(日)～5日(火・祝)

会場：お台場海浜公園・お台場ビーチ　主催：NPO 法人日本ビーチ文化振興協会
主幹：ODAIBA ビーチスポーツフェスティバル 2015 実行委員会

ビーチのすべてがここに集結！

WAKE BOARD

BEACH SOCCER

「また食べたい！」「食べてみたい！」の声にお応えします。

TRADE MARK REGISTERD

金鶴食品製菓株式会社

ナッツ・ドライフルーツ製造卸